We create chemistry

殺虫剤

エフィコン®SL

®＝BASF社の登録商標



殺虫剤分類 36

有効成分
アクサリオン®
（ジンプロピリダズ）
…… 10.8%

登録番号：第25005号
性　　状：褐色～暗褐色澄明水溶性液体
毒　　性：普通物＊
危 険 物：三石・Ⅲ・水溶性
有効年限：３年
包　　装：250mℓ×20本、500mℓ×20本（地域限定）

＊普通物：毒劇物に該当しないものを指していう通称

■特長

●新しい作用機構（IRAC：36）により、既存薬剤抵抗性害虫にも優れた効果
●速やかに吸汁を阻害することによる、ウイルス媒介抑制効果
●優れた移行性（浸達性、根からの浸透移行性、葉から葉への移行性）で安定した効果
●ハチや天敵といった有用生物への影響が少ないことから、IPMに適する

■適用病害虫と使用方法

（2026年11月4日現在）

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジンプロピリダズを含む農薬の総使用回数
りんご	アブラムシ類	1000～4000倍	200～700ℓ/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
なし							
	カイガラムシ類	1000倍					
もも	アブラムシ類	1000～2000倍					
	カイガラムシ類	1000倍					
おうとう	オウトウショウジョウバエ			収穫前日まで			
ぶどう	チャノキイロアザミウマ			収穫7日前まで			

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジンプロピリダズを含む農薬の総使用回数
キャベツ	アブラムシ類	250倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（30×60cm、使用土壌約1.5～4ℓ）当り0.5ℓ	定植当日	1回	灌注	3回以内（定植時までの処理は1回以内、散布及び無人航空機散布は合計2回以内）
		1000～2000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	
	アザミウマ類	1000倍					
	アブラムシ類	16倍	0.8～1.6ℓ/10a			無人航空機による散布	
		32倍	1.6～3.2ℓ/10a				
はくさい	アブラムシ類	250倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（30×60cm、使用土壌約1.5～4ℓ）当り0.5ℓ	定植当日	1回	灌注	3回以内（定植時までの処理は1回以内、散布は2回以内）
		1000～4000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	
ブロッコリー		250倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（30×60cm、使用土壌約1.5～4ℓ）当り0.5ℓ	定植当日	1回	灌注	
		1000～2000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	
	アザミウマ類	1000倍					
レタス類	アブラムシ類	250倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（30×60cm、使用土壌約1.5～4ℓ）当り0.5ℓ	定植3日前～定植当日	1回	灌注	
		1000～4000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	
トマト ミニトマト	アブラムシ類 コナジラミ類	500倍	50mℓ/株	定植当日	1回	育苗ポット灌注	3回以内（定植時までの処理は1回以内、散布及び常温煙霧は合計2回以内）
	アブラムシ類	1000～2000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	
	コナジラミ類 アザミウマ類 トマトサビダニ	1000倍					

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジンプロピリダズを含む農薬の総使用回数
なす	アブラムシ類 コナジラミ類	500倍	50mℓ/株	定植当日	1回	育苗ポット灌注	3回以内（定植時までの処理は1回以内、散布及び常温煙霧は合計2回以内）
	アブラムシ類	1000～2000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	
	コナジラミ類 アザミウマ類	1000倍					
きゅうり	アブラムシ類 コナジラミ類	500倍	50mℓ/株	定植当日	1回	育苗ポット灌注	3回以内（定植時までの処理は1回以内、散布は2回以内）
	アブラムシ類	1000～2000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	
	コナジラミ類 アザミウマ類	1000倍					
ピーマン	アブラムシ類 コナジラミ類	500倍	50mℓ/株	定植当日	1回	育苗ポット灌注	3回以内（定植時までの処理は1回以内、散布及び常温煙霧は合計2回以内）
	アブラムシ類	1000～2000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	
	コナジラミ類	1000倍					
すいか メロン	アブラムシ類 コナジラミ類	500倍	50mℓ/株	定植当日	1回	育苗ポット灌注	3回以内（定植時までの処理は1回以内、散布は2回以内）
	アブラムシ類	1000～2000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	
	コナジラミ類	1000倍					
いちご	アブラムシ類 コナジラミ類	500倍	50mℓ/株	定植当日	1回	育苗ポット灌注	3回以内（定植時までの処理は1回以内、散布及び常温煙霧は合計2回以内）
	アブラムシ類	1000～2000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	
	アザミウマ類 コナジラミ類	1000倍					
てんさい	アブラムシ類	100倍	ペーパーポット1冊当り1ℓ（3ℓ/㎡）	定植当日	1回	灌注	3回以内（定植時までの処理は1回以内、散布は2回以内）
		2000～4000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジンプロピリダズを含む農薬の総使用回数
ばれいしょ	アブラムシ類	100倍	20ℓ/10a	植付時	1回	植溝内土壌散布	3回以内（植付時の植溝内土壌散布は1回以内、散布及び無人航空機散布は合計2回以内）
		2000～4000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	
		32倍	0.8～1.6ℓ/10a			無人航空機による散布	
		64倍	1.6～3.2ℓ/10a				
だいず		2000～4000倍	100～300ℓ/10a			散布	2回以内
茶	チャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマ、チャトゲコナジラミ	500～1000倍	200～400ℓ/10a	摘採14日前まで			

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジンプロピリダズを含む農薬の総使用回数	被害防止方法
									使用者
トマト ミニトマト	温室、ガラス室、ビニールハウス等の密閉できる場所	アブラムシ類 アザミウマ類 コナジラミ類 トマトサビダニ	40倍	10ℓ/10a	収穫前日まで	2回以内	常温煙霧	3回以内（定植時までの処理は1回以内、散布及び常温煙霧は合計2回以内）	
なす		アブラムシ類 アザミウマ類 コナジラミ類							
ピーマン		アブラムシ類 コナジラミ類							
いちご		アブラムシ類 アザミウマ類 コナジラミ類	50倍	9ℓ/10a					

⚠ 効果・薬害等の注意事項

●使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。

●散布量は対象作物の生育段階、栽培形態および散布方法に合わせて調節してください。

●軟弱な苗、または高温条件下で灌注すると薬害を生じるおそれがあるので注意してください。

●野菜類への灌注処理後、ポット又はトレイのまま放置すると、葉縁部の壊死やそれに伴う葉の変形を生じるおそれがあるため、灌注処理後はできるだけ速やかに定植してください。

●ぶどうの幼果期から果粒肥大期の散布は果粉の溶脱のおそれがあるので使用をさけてください。

●茎葉散布は、害虫の発生初期に行い、とくに発生が多くなってからのアザミウマ類、カイガラムシ類への散布は効果が劣るので、発生状況をよく確認の上、使用してください。

●りんごの品種「秋映」では、花弁や葉に薬害（褐変）が生じるので使用しないでください。また、飛散（ドリフト）等により散布液がかからないように十分注意してください。

●キャベツの育苗期に灌注する場合は、事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。特に、品種「初秋」に使用すると、葉の奇形や生育遅延を生じる場合があるので注意してください。

●ハウスなどの常温煙霧用として使用する場合は下記の注意事項を守ってください。

- 専用の常温煙霧機により所定の方法で煙霧してください。特に常温煙霧装置の選定及び使用に当たっては、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。
- 作業はできるだけ夕刻に行い、作業終了後6時間以上密閉してください。

●本剤を無人航空機で散布する場合は、次の事項に注意してください。

- 散布機種の散布基準に従って実施してください。
- 散布機種に適合した散布装置を使用してください。
- 散布中、薬液が漏れないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行ってください。
- 散布薬液の飛散による他の分野への影響に注意して、散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意してください。
- 散布終了後は以下の注意事項を守ってください。
  - ・使用後の空容器は放置せず、安全な場所に廃棄してください。
  - ・使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。
  - ・散布終了後、機体の装置は十分洗浄してください。また、薬液タンクの洗浄廃液は河川等に流さないでください。

●使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。

●適用作物群に属する作物又はその新品種に初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。

●過度の連用をさけ、可能な限り作用性の異なる薬剤やその他の防除手段を組み合わせて使用してください（抵抗性発達回避）。

●空容器等はほ場に放置せず環境に影響を与えないよう適切に処理してください。

⚠ 安全使用上の注意事項

保　管…火気をさけ、食品と区別して、直射日光のあたらない低温な場所に密栓して保管してください。

農薬使用者への被害防止方法

防護装備：該当なし。

そ の 他：夕刻から常温煙霧し、常温煙霧中はハウスへ入らないでください。また、翌朝の常温煙霧終了後はハウスを開放し、十分換気をした後に入室してください。

さらに詳しい製品情報はこちらから

※QRコードを読み込む、
またはクリックしてください。